



Metals Focus – Precious Metals Weekly

貴金属ウィークリー 第42号 2023年9月6日

排出量

『Gold ESG Focus』の産金企業の2022年のスコープ1と2の排出量は前年比マイナス2%で2万8185 ktCO₂e

水

『Gold ESG Focus』の産金企業の2022年の水資源利用量は前年比マイナス7%で987 ギガリットル、水の消費量はマイナス3%で511 ギガリットル

企業統治

『Gold ESG Focus』の産金企業の2022年の政府への支払いは前年比マイナス16%で81億ドル、地域コミュニティ発展への支出は37%増の3億7300万ドル

『Gold ESG Focus 2023』発表

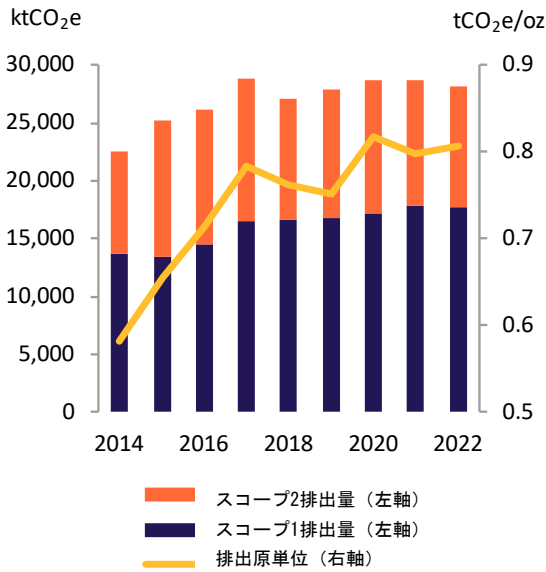
産金企業の環境・社会・企業統治（ガバナンス）— ESG — に関する我々の年間レポート『Gold ESG Focus 2023』が、9月5日にロンドンで行われたイベントの席で発表された。このレポートは2014年から2022年の期間で、1産金大手企業17社に関して、ESGの観点から幅広く分析を行なったもので、今回は同レポートの主要点を紹介していきたい。

産金大手17社の2022年の スコープ 1 と 2 を合わせた温室効果ガス排出量は前年比でマイナス 2%

増えすぎると地球温暖化のスピードアップにつながる温室効果ガスの、企業活動による排出量を把握するために、スコープ 1、2、3 と分類する方法がある。スコープ 1 とは直接排出量、つまり自動車の排気や自社の焼却設備での燃焼などによって排出される温室効果ガスの量。スコープ 2 とは他から供給されたエネルギーを使うことによって間接的に排出された温室効果ガスの量をいう。金鉱山業では一般的にスコープ 1 と 2 を合わせたものが温室効果ガス排出量とされている。スコープ 3 とはサプライチェーンの中で間接的に排出される量、例えば購入された製品や商品の利用に伴う温室効果ガス排気量を指し、金鉱山業の温室効果ガス排出量を語る時には通常含まれない。

我々のレポートで取り上げた産金大手 17社の、2022年の スコープ 1 と 2 を合わせた温室効果ガス排出量は、前年よりも 2% 減って 2818.5 万トン CO₂e。各社ともに排出量を軽減する努力を行い、化石燃料への依存を減らした成果だ。金1オンスを生産するのに要した温室効果ガスの平均（排出原単位）は、前年とほぼ変わらず 0.81 トンCO₂e/オンス。昨年の世界の金生産量は、3615トンであったから、これから推測すると、産金業界全体の スコープ 1 と 2 の温室効果ガス排出量は約 9400万トンCO₂e となり、これは国際エネルギー機関が推定する2022年の世界全体の温室効果ガス排出量、368億トンCO₂e の約 0.3% となる。

温室効果ガスの排出量と排出原単位



『Gold ESG Focus』掲載の産金企業17社の合計と平均
資料: 各社の会社レポート、メタルズフォーカス

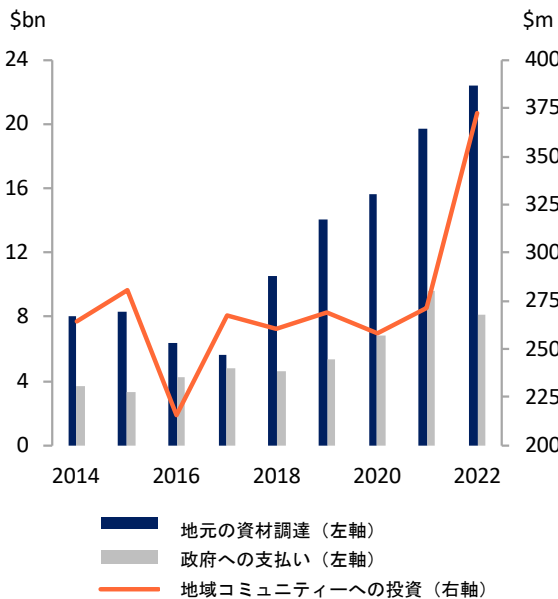
2022年の水資源利用量は前年比マイナス 7%、
水消費量はマイナス 3%

鉱山生産活動を効率的に行うには安定した水の供給が不可欠で、金の選鉱過程および採掘現場の埃除去などに使われる。しかし金鉱山業には、水の消費量を抑え、処理水などで水資源を汚染しないよう環境へのインパクトを減らし、水資源への依存を抑えることが求められている。これは水資源の乏しい地域で企業活動を行う場合には特に重要な点だ。

我々のレポートで取り上げた産金各企業の2022年の水資源利用量の合計は、前年比で 7% 減って 987 ギガリットルであった。このうち 52%に当たる 511 ギガリットルは、産金企業が消費し下流のユーザーには届かない分であった。水の消費量は前年比で 3% 減ったが、これはカナダ Barrick 社の消費量が大幅に減ったためである。我々が対象とした産金大手 17社が 1オンスの金を生産するために消費した水の量は、1年前と変わらず2022年は 1万5000リットル/オンスだった。一方で水のリサイクル率は、2021年は平均 69% だったが、2022年は 72% に上がった。

政府への支払いは前年比マイナス16% で 81億ドル、
地域プロジェクトへの支出は 37% 増えて 3億7300万ドル

産金企業の支出



『Gold ESG Focus』掲載の産金企業17社の合計と平均
資料: 各社の会社レポート、メタルズフォーカス

産金企業は企業活動を行っている地域の社会的、経済的な発展を援助するために大きな貢献をすることが多い。これには税金や採掘権料などの政府への支払い、地元で調達する資材費、地域コミュニティの発展プロジェクトへの出資、そして地域住民の雇用などが含まれる。

『Gold ESG Focus』で取り上げた産金大手が政府に支払った金額は、17社のうち14社で減ったため、2022年は前年から 16% 減って 81億ドルだった。2022年は前年よりも金の生産量が減って減収となったことと、2022年の操業コストが上昇したためである。地元での資材調達費用は 14% 増えて 224億ドルで、これは生産拡張プロジェクトで支出が増えたのと、サプライチェーンの強化が行われたため。一方で産金企業による地域コミュニティプロジェクトへの自主的な支出は 37% も増えて 3億7300万ドルであった。

メタルズフォーカスについて

メタルズフォーカスは世界でも屈指の貴金属コンサルティング会社。ゴールド、シルバー、プラチナ、パラジウムのマーケットリサーチを専門とし、定期的なレポートや需給及び相場予想、特定の要望に応じたコンサルティングを提供している。

メタルズフォーカスのレポートとコンサルティングは、高度なデータ分析と詳細な現地調査の両方をもとにしたリサーチに基づく。我々のアナリストは頻繁に主要マーケットに赴き、メーカーからエンドユーザーまでを含めた関係者に取材をして直接入手した情報をレポートに役立てている。

『GOLD ESG FOCUS』について

このレポートでは、2014年から2022年の期間で、17の主要産金企業に関し、ESG観点から幅広く比較分析を行い、読者が各社の ESG に対する取り組み、およびに金鉱山産業の ESG の流れをよりよく理解できることを目指した。

取り上げた産金企業: Agnico Eagle、AngloGold Ashanti、Barrick Gold、B2Gold、Endeavour Mining、Goldcorp、Gold Fields、Harmony Gold、IAMGOLD、Kinross、Newcrest、Newmont、Northern Star Resources、Polymetal、Polyus、Randgold Resources、Yamana Gold の17社

その他のレポート及びサービスに関しては下記までご連絡ください。

Charles de Meester, Sales Director
charles.demeester@metalsfocus.com,
Tel: +44 (0)7809 125 334

Neelan Patel, Regional Sales Director
neelan.patel@metalsfocus.com,
TEL: +44 (0) 7783 448 891

